

要 旨

背景 多くの一般病棟で人工呼吸器患者が療養しているが、状態の安定した患者とは限らないと推察される。そのため、一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事している看護師への支援が必要だが一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに関する困難感是不明瞭である。

目的 一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事する看護師の困難感と対処を明らかにする。

方法 臨床経験 3 年以上で、一般病棟での人工呼吸器管理が必要となった患者へのケア経験のある看護師を研究協力者とし、質的記述的分析を行った。

結果・考察 経験年数 5～12 年目(平均 7.88 年目)の看護師 8 名が研究協力者となった。

1. 一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事する看護師の困難感は 6 個のカテゴリーが抽出され【よいケアが行えているのかという不安がある】【人工呼吸器に関することが分からないまま受け持つことへの不安がある】【一般病棟の重症度が高くなることで業務が多くなるため負担である】という感情に関連する困難感と、【人工呼吸器装着患者へのケアについて医師と話し合うことが難しい】【患者の状態変化に合わせてタイムリーに対応できない】【受け持ち患者数が多く、1 人でケアをしたり十分に訪室できないために、人工呼吸器装着患者の安全を守ることが難しい】という行動に関連する困難感に大別された。

2. 一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事する看護師の困難感に影響を与えている状況は 3 個のカテゴリーが抽出され【OJT、Off-JT を含めて人工呼吸器に関して学ぶ機会が少ない】という知識面に関する状況、【人工呼吸器装着患者へのケアを相談できるリソースがない】という人的なリソースに関する状況、【人工呼吸器装着患者であっても 1 人で受け持たなければならない状況にある】という体制面に関する状況を表し、これら 3 つが複合的に困難感の 6 個のカテゴリーに影響を与えていることが示された。

3. 一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事する看護師の困難感への対処は 6 個のカテゴリーが抽出され【自分なりに解決しようと努力する】【困難の原因となっていることにはたらきかける】【困難感を同職種間で共有する】【他職種に相談する】という直接的な問題解決に向かうポジティブな対処と、【困難や問題と感じていることに向き合わず回避したり、不満をいう】【困難や問題に対して妥協する】というネガティブな対処の 2 種類に大別された。困難感は看護師自身の成長を促すが、困難感の原因となるコンフリクトに対しては協調ではなく妥協、適応、回避という対処のみであるため、結果としてモチベーションの低下や看護師としての成長を阻害し得る場合があると示された。

結論 一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事する看護師の困難感では 6 個、困難感に影響を与えている状況では 3 個、一般病棟で人工呼吸器装着患者のケアに従事する看護師の困難感への対処では 6 個のカテゴリーが抽出された。